



公益社団法人
鹿児島県理学療法士協会
ニュース No.100 (139)

2023.11.27

- 発行 公益社団法人 鹿児島県理学療法士協会
- 発行人 平名章二
- 編集 原口拓人
- 事務局 〒890-0063 鹿児島市鴨池1丁目48-25
TEL 099 (203) 0860
FAX 099 (203) 0865
- 印刷 中礼印刷

総会員2645名 (10/15現在)

URL : <http://infokpta.com/>
e-mail : infokpta@po.minc.ne.jp



曾我どんの傘焼き (鹿児島市)

目次

鹿児島県理学療法士協会ニュース 法人発足第100号に寄せて …	2
事業報告 公益事業部より …	3
研修報告 学術部より …	7
研修報告 専門部より …	8
研修報告 介護保険部より …	10
研修報告 障がい部より …	11
始良地区 研修会報告 …	12
大隅地区 研修会報告 …	13

南薩地区 研修会報告 …	14
研究助成の募集 …	16
鹿児島地区よりお知らせ …	17
奄美地区よりお知らせ …	18
私と私の職場 …	19
私のおすすめ …	20
事務局だより・編集後記 …	21

「鹿児島県理学療法士協会ニュース」法人発足第100号に寄せて

梅本 昭英

今回鹿児島県理学療法士協会ニュースが法人改組後100号記念という節目でご挨拶させて頂く機会をいただきました。

皆さんご存知のことと思いますが、鹿児島県理学療法士協会は昭和41年7月会員2名からスタートし、2023年10月31日現在、2645名の会員により運営されております。

その間、平成11年3月より社団法人として活動し、さらに平成22年4月には公益社団法人としての認可を受け、多くの皆様に支えられ設立54年を歩んできました。この間「鹿児島県理学療法士協会ニュース」は会員の皆さんと鹿児島県民の方々、県外の理学療法関連団体の方々と架け橋として、私達の活動を発信する役割を担ってきました。

鹿児島県理学療法士協会は、活動の原点である「会員の職業倫理の高揚を図るとともに、理学療法の学術及び技能の向上を推進し、県民の医療及び保健の充実並びに福祉の向上に寄与する」という学術団体としての会員への学術研修活動の場の提供と、公益法人としての県民への理学療法知識・技術の提供という当士会の目的は変わること無く現在に至るまで事業を展開してきております。これは学術・職能団体および公益法人として決して揺るがない活動を続けてきました。

法人化してからの幾つかの大きな転機を振り返ってみたいと思います。

まずは1999年の社団法人化です。100号記念で内匠正武元会長も触れていますが、約3年という時間をかけて書類作成、行政・打ち合わせとかなり難渋しました。今思えば当時副会長になったばかりで、何のお手伝いもできなく心苦しく感じている次第です。

「なかよしくラブ」から「社会的な大人の団体」へ成長した重要な節目であったと思います。その後、

2000年第35回日本理学療法士学会。当初の全国研修会誘致活動から棚ぼたの全国学会主管となりました。少ない会員でなんとか成功に導くため会員一同の実力が試された学会でもありましたが、絶賛の大会となったように記憶しています。

2010年公益社団法人化。全国に先駆けて公益法人各を取得しました。先人の築いてきた組織の基礎に、会員の皆さんの地道な公益活動が認められての取得でした。

2012年第47回全国研修会。私にとって大きな転機であったかと思います。選考地落選という経験もしましたが、これがきっかけで会員一同のやる気に火がつき、盛大な研修会を開催することができました。

2014年県学会奄美大会。鹿児島は離島を多く抱える県です。なんとか島嶼部での学会を開催したいという、理事の方々の熱意と少人数でも団結して県学会を成功させるという大島地区の会員みんなの努力で大成功を納めることができました。

2019年九州理学療法学術大会・鹿児島県理学療法士協会設立50周年。私が会長を拝命してから必ず達成したいこと。これが九州地区の理学療法士学術大会の単独開催です。紆余曲折ありましたが、理学療法士の底力を見せることができたと思います。

そして、協会設立50周年メモリアルです。先人の築き上げてきた会が50歳を迎えました。感無量の時を過ごしたことがつい先日ようです。

このように多くの出来事を経験し、その時々活動を広く広報してくれた鹿児島県理学療法士協会ニュースは、2015年からは紙媒体のニュースから一部Webニュースという形を取り入れながら、これからも会員の皆さん、鹿児島県民、他団体の方々と架け橋として重要な役割を担ってくれるものと確信しています。

これからの鹿児島県理学療法士協会は、平名章二会長を先頭に従来の活動に新たな取り組みを加え、今後もより充実した士会活動を展開されるものと、一会員として期待しております。

健康づくりキャンペーン実施報告

公益事業担当理事 福 永 裕 樹
部長 土 井 敦
担当 木 藤 正 暁

令和5年8月20日に、イオンモール鹿児島の水の広場で「健康づくりキャンペーン」を実施してきました。この事業は、平成26年度から行われている介護予防推進キャンペーンから継続して行われている事業です。コロナ禍で一昨年、昨年は規模を縮小した形でしたが、今年度は体力測定等を含む通常の形で行うことが出来ました。実施内容は、子供ロコモ対策として子供向けの簡単な評価やご家族へのアドバイス、大人向けに握力測定・バランス検査などの4項目の体力テスト、健康相談などを実施しました。

スタッフは公募した鹿児島県理学療法士協会会員8名と公益事業部・広報部のスタッフ6名の合計14名で行いました。当日、割り当てられたイベントブースは「水の広場」で、屋根はあるものの屋外でしたので蒸し暑く、お客様に足を止めて頂くには悪条件ではありましたが、若いスタッフが店内の客様の多い所で握力計をもって呼び込みを行うなど、臨機応変な対応もあり多くの方々に参加いただきました。イオンモール鹿児島は家族連れの方が多く、高齢者の参加者は少ないですが、子供から大人まで合計201名の参加がありました。

高校生や中学生は、理学療法士という仕事に興味を持ってくれた方もいたようです。会場では理学療法士についてのパンフレットやハンドブック、風船や団扇（うちわ）なども配布し、参加者も喜ばれていました。

公募してくれたスタッフは若い方が多かったです。10時から15時と長丁場の中、交代で休憩を取りながら、時間いっぱい笑顔で頑張ってくれました。普段の仕事ではあまり経験しないであろう大きな声での呼び込みや、若い家族連れや子供さんへの柔らかい対応、学生さんに理学療法士としての仕事の魅力を伝える姿に、鹿児島県理学療法士の未来は明るいと確信しました。終了後もスタッフ皆さん疲労感はあるものの充実感を感じ、口々に楽しかったと感想を話されていました。

ご協力いただいた先生方、本当にありがとうございました。

今後も、公益事業部は様々な事業の企画・実施を行っていきます。興味のある先生方、是非、一緒に取り組んでみませんか？



公益事業部 公開講座 実践報告

公益事業担当理事 福 永 裕 樹
部長 土 井 敦

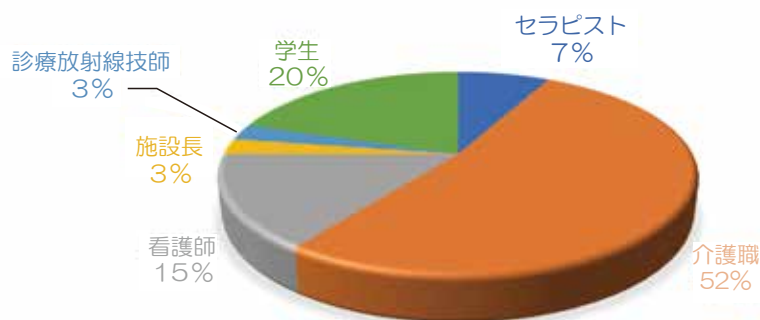
令和5年10月22日に公開講座「人材不足の救世主！身体に優しい介護技術のコツをつかみ楽々介護を実践しよう」を行いました。昨年までは感染対策からオンライン研修であったため、3年ぶりの対面研修となりました。久しぶりの対面研修で参加者が集まるか不安でしたが、定員30名を大きく超え40名の申し込みを頂きました。当日は37名の参加者、6名の公募スタッフ、6名の公益事業部スタッフで、合計50名弱での研修となりました。また、今回から、医療福祉系養成校の学生さんにも参加対象を広げた結果8名の学生さんにも参加頂きました。他にも復習に使用できる動画配信を行う旨を案内に記載したことも、応募数が多かった要因だったと思われます。

当日は参加者を6ベッドに分け、各ベッドにスタッフが1人つく体制で行いました。実技スタッフを公募し6名の方に協力いただきました。公募スタッフには、事前学習用の動画を配信し、前日にも対面による事前学習会を行い参加頂いたことで、当日の各ベッドでの指導にも大きなトラブルなく、参加者はもちろん、スタッフにとっても学びの多い研修になったようでした（スタッフ感想 後記）。参加者のアンケート結果（後記）を見ると、おおむね好評を頂けたようです。特に、質問しやすい雰囲気が良かったとか、楽しい雰囲気でよかったなど、雰囲気に関する高評価の意見が多かったです。これは、事例相談スタッフを設け、公募スタッフのサポートに入って頂いたことや、各スタッフの雰囲気作りが良かったのだと思います。

課題は、先述しましたように、時間が足りなかったとの声を複数頂きました。今回は感染予防の観点から、飲食を避けるため、昼食なしの半日開催としましたが、今後は、1日研修開催も検討したり、もっと絞った内容での開催も検討していきたいと思います。また、今回はスタッフへ事前学習用の動画を配信したり、参加者にも研修後に復習用動画を配信するなど、動画配信に関しても新しい取り組みを行い、その有用性が再確認されました。今後も、動画配信サービスを積極的に取り入れていきたいと思います。

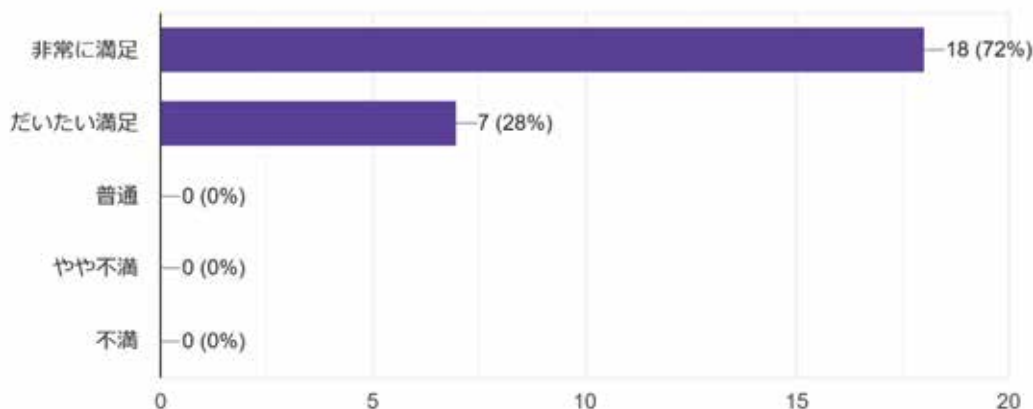
今後も公益事業部として、地域社会の皆様にも少しでもお役に立てるような研修を企画していきたいと思います。一緒に活動して下さる方、実技研修等の講師等、お手伝いいただける方を募集していきますので、ぜひ、ご連絡、ご応募ください。

参加者の職種別割合



①本日の講義内容について満足度を教えてください。

25件の回答



参加者の声（アンケートより一部抜粋）

- ・実技も分かりやすく時間を沢山使えて練習がいっぱいできたのでよかった
- ・すぐに現場で実践出来ること、実際に実技で体験出来たので良かった。
- ・スタッフの方へ気軽に質問できる雰囲気良かったです。
- ・起き上がり、起立の介助やスライディングシートの使い方など、細かにわかりやすく、かつ患者さんのことを第一に考えた方法をご指導していただいたから。
- ・講師の方のわかりやすい説明、楽しい雰囲気、実際に実技を行うことにより更に理解を深めることができた。
- ・自分の無意識な動作に優しい介助方法が隠れているのには納得です。逆に自分の苦痛な動作を相手にしていることに気づくことができました。
- ・Zoomでは伝わりにくい実技を詳しく学習することができました。
今日はありがとうございました。参加してとても良かったです。
- ・最後が駆け足で、実技の時間が足りませんでした。もっと時間があれば良かったです。
- ・楽しく学べた。スライディングボードやリフトも体験したかった
- ・とても有意義な研修でした。ただ時間がもう少し欲しかったです。
- ・公開講座を定期的に行なっていただきたいです。
- ・今回の講義を数回行って頂けたら、施設の他の職員にも参加してもらい体験する事で、自身の技術が高まるのかなと思いました。

スタッフ感想（一部抜粋）

- ・各ベッドにてグループ分けしましたが、フォロー体制があったので大変助かりました。その為、参加者の皆さんも質問もしやすくなったと思います。
- ・事前動画学習や、前日に実技の研修ができたことで、勉強になりましたし、スタッフの顔合わせにもなり、アットホームな雰囲気が作れたのかなと思いました。
- ・私の病院でも腰痛予防に対する介助方法などの研修がありますが、身体の向きで重心移動がやりやすくなるなど、大変勉強になりました。自分だけでなく周りのスタッフ、参加者も楽しそうにしている、雰囲気作り等参考になりました。

公募スタッフ前日の事前学習の様子



当日研修の様子



研修報告 学術部より

学術部担当理事 白 尾 麻 美
部長 木 山 良 二
部長 川 田 将 之
部長 福 森 愛 美

○ 研修会報告

第2回 臨床研究の進め方

講 師：榊間 春利 先生 牧迫 飛雄馬 先生 大渡 明彦 先生（鹿児島大学）

会 場：鹿児島大学医学部保健学科共通教育棟インテリジェント講義室

日 時：令和5年8月20日（日） 9：30～12：50

参加者：38名

第3回 前庭機能に着目したリハビリテーション介入 ～末梢前庭障害、中枢神経疾患を中心に～

講 師：塩崎 智之 先生（奈良県立医科大学）

会 場：鹿児島大学医学部保健学科共通教育棟インテリジェント講義室

日 時：令和5年10月15日（日） 9：30～12：40

参加者：51名

8月・10月に令和5年度学術部研修会および理学療法士講習会が上記の通り、計2回開催されました。Zoomを使用したオンライン・対面でのハイブリッド形式での講習会となりました。休日にも関わらず、多数の会員にご参加いただきました。

第2回では研究のために必要な準備や、論文採択されるまでの流れ、注意点や心構えなど、どのように研究を進めていくのか具体的なお話をさせていただきました。新生涯学習制度が開始され、研究や学会発表に興味をお持ちの会員の方も多く、得るものの多い研修会であったと思います。

第3回では前庭機能に関する基礎知識から評価・検査方法、前庭リハビリテーションのエビデンス、臨床応用などについてご講義いただきました。リハビリを進めるうえで戸惑うことのあるめまいの症状について考え直すきっかけとなりました。

鹿児島県理学療法士協会学術部は今年度残り2回の研修会を開催予定です。今後とも会員の皆様の知識・技術の維持・向上に貢献できるニーズにあわせた研修会を開催できるよう活動を続けてまいります。

○ 学術部研修会について

今年度まで研修会会費は基本的に銀行払い込みでお願いしておりましたが、ポイント付与や参加費の管理のため、来年度よりJPTAアプリからの申し込みとクレジット決済を中心とする予定です。

現在、JPTAアプリでの決済を試験導入しておりますので、詳細はお申し込み時にご確認ください。

担当：介護老人保健施設きりしま 福森 愛美

研修会報告（専門領域研究部 生活環境支援系）

専門領域研究部 理事 岩 森 俊
部長 戸 田 博 之

令和5年度度の専門領域生活環境支援系研修会を下記の概要で開催致しました。

日 時：令和5年9月25日（土）13:30～16:30

場 所：いづろ今村病院

テーマ：ポジショニング

講 師：原 口 鈴 香 先生

昨年は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、ZOOMを使用したオンライン研修形式で開催しておりましたが、今年是对面での実技研修を開催することができました。

原口先生からは、「ポジショニング～姿勢管理について～」というテーマで、介助者の腰痛予防の観点、ベッド上・座位の姿勢管理、そして職場でのポジショニング導入について、講義と実技を交えながら研修をすすめていただきました。

定員30名に対し15名の参加となりましたが、ポジショニングピローやスライディングシート、スライディンググローブ等、実技の時間を有効に活用することができました。研修後のアンケートでは、「患者さんの立場になってポジショニングを考えることができた」、「今日の学びを明日から活かしていきたい」といった回答もありました。参加者の交流もありながら明日の仕事につながる研修ができたと感じています。

今後もより多くの会員の方々と一緒に学ぶ機会を設けていきたいと思っておりますので、会員の皆様引き続きよろしくお願いたします。



研修会報告（専門領域研究部 運動器系研修会）

専門領域研究部 理事 岩 森 俊
部長 西 洋 樹

令和5年度第2回目の運動器系研修会を下記の概要で開催致しました。

日 時：令和5年10月1日（土）9:00～12:10
場 所：今村総合病院
テーマ：腰部骨盤帯・膝関節の触診と評価治療展開
講 師：白 尾 泰 宏 先生

毎回好評を頂いている白尾先生の実技研修を開催致しました。白尾先生からは、腰部骨盤帯や膝関節の理学療法を行う上で難渋することが多い仙腸関節障害、膝屈曲可動域制限、半月板損傷の保存治療、末期変形性膝関節症を取り上げていただきました。機能解剖や病態を詳細に説明いただいた上で、これまでの治療経験で積み上げられたクリニカルリーズニングやエビデンスを基にした治療展開を、経験が浅い先生方でもすぐに明日から実践できる形にまとめていただきました。評価・治療実技もピットフォールとなりやすいポイントを丁寧に説明いただきました。これまでは対処の難しかった病態に対して先生がチャレンジされている姿勢は、私たちの背中を強く押して下さったと思います。個人的な経験から、地方でこれだけの内容を、しかも安価で学べることは非常に貴重なことと感じます。今回はそのご期待もあり定員20名に対し、30名を超える応募を頂きました。残念ながら定員超過後に申し込みを頂いた先生方には参加いただけませんでしたが、来年度も魅力ある研修会を企画したいと考えていますので、ぜひ奮ってご参加いただきたいと思います。会員の皆様引き続きよろしくお願いたします。



保険担当研修会ご報告

介護保険担当理事 湯地 英 充
部長 宮 雅 紀

2023年8月30日（水）、公益社団法人鹿児島県理学療法士協会、鹿児島県理学療法士連盟、一般社団法人鹿児島県POS連絡協議会主催にて「10年先も社会から必要とされるリハビリテーション専門職、トリプル改定に向けて我々は国政（未来）に何を訴える」と題し、講師に参議院議員田中昌史先生、衆議院議員宮路拓馬先生をお迎えし、かごしま県民交流センター大研修室にて研修会を開催致しました。参加者は91名（理学療法士：65名・作業療法士：16名・言語聴覚士：10名）となり、対面での研修会となりました。宮路拓馬先生からはリハビリテーションに関する小委員会事務局長、リハビリテーションを考える議員連盟の立場から議員連盟の重要性、なぜ田中昌史先生が必要なのか、なぜリハ職議員が必要なのかについて講話があり、子供家庭庁の政策、社会保障費、医療・介護・障害福祉の均等性、専門職能の対立などをテーマに政治の現場をお話いただきました。お話の中で「まず現場が声を上げること」の重要性について繰り返し話されたことが印象的でした。

田中昌史先生からは政務調査会厚生労働省労働部会での活動やリハビリテーションに関する小委員会事務局長代理の役割について説明があり、自分たち専門分野での活躍が重要で、急性期強化や在宅医療の重要性を強調されました。リハ職の処遇についても議論され、給与への反映が必要と指摘されました。政府の骨太の方針（令和6年の方針）について、リハビリテーションの充実と処遇改善、リハ職の活用が最優先課題と強調されました。エビデンス確立のためのデータ収集やタスクシフト、訪問看護などの問題についてもお話しくださいました。講話終了後、質疑応答の時間を設けていただき、処遇改善や今後の働き方、リハ職を取り巻く環境についてお答えいただきました。平名会長より「3職種学術的に活躍する場がなければいけない。その代弁者が田中昌史先生、宮路拓馬先生です。このお二人に今後リハ職の活躍の場をどのように提案できるのかは皆さんの声次第」とのお言葉をいただき、今後、POS一体となった活動の必要性を強く感じる研修会となりました。



令和5年度 第1回発達サポート研修会 報告

障がい児・者福祉部担当理事 山 中 純
部長 小 山 尚 宏

日 時：令和5年8月3日（木） 10:00～11:30

形 式：ハイブリッド開催（対面+オンライン）

テーマ：子どもの体幹と、体づくり運動

講 師：馬場病院 理学療法士 小牧隼人 先生

対 象：県内の小学校教諭、特別支援教諭、子どもの発達に興味のある方、その他

参加者：対面28名+オンライン参加63端末（1端末から複数人参加を含む）

障がい児・者福祉部では、主に一般の方を対象に公開講座として年2回の研修会を開催しています。

今年度第1回目の研修会は、昨年度に引き続き、県内全域の公立小学校・特別支援学校の教諭を主な対象として企画し、当部会初の試みとして、対面とオンラインのハイブリッド形式で開催しました。前回開催の反省を活かし、広報手段を変更（FAX→郵送）、開催日を考慮（夏季休暇期間および平日開催）した結果、100名を超える参加をいただき無事に終えることが出来ました。

講師の小牧先生には、子どもの運動発達や体幹のはたらきについて理解し、日常で簡単な運動に取り組めることを目的に、実際に参加者で体を動かして体感してもらいながら分かりやすくご講演いただきました。研修会後のアンケートにおいても、「とても勉強になった」「他の職員や保護者にも聞いてもらいたい」「私の学校にも来てほしい」など、多くのありがたい感想も頂戴しました。

子どもたちや教諭、保護者に対する健康教育など学校保健分野に関して、今後さらに私たち理学療法士の価値を提供していく上で、教育委員会の理解や協力も不可欠だと感じています。本研修会開催にあたっては、鹿児島市教育委員会のご後援を賜ることができており、今後も学校保健分野に関しては教育委員会とも連携を図りながら、研修会を開催していきたいと思っております。

今後とも障がい児・者福祉部をよろしく願いいたします。



令和5年度 第1回始良地区研修会の開催報告

始良地区担当理事 神田 勝利

始良地区長 福 榮 竜 也

日 時 : 令和5年9月22日(金) 19:00~21:00 Web開催(ZOOM)
参加者: 97名

テーマ : 『膝関節の可動域制限における知識と治療展開』

講 師 : 鹿児島第一医療リハビリ専門学校 臼 元 勇次郎 先生

カリキュラムコード : 85 可動域制限

講義概要: 今回の研修では、臼元先生の類まれなご経験と、学術的な視点から、膝関節の基本的解剖から治療展開までをご講義いただきました。zoom形式の研修会ではありましたが、動画を織り交ぜながらの講義でありましたので、より治療実践がイメージしやすい内容であったと思います。講義が90分、質疑が30分と、平日の研修会としては長丁場でありましたが、時間を持てあますことなく、質の高い研修であったと考えます。研修会で用いました評価・治療の動画は研修会開催日時から1カ月視聴することが可能です。研修会の振り返りにお役立ていただければ幸いです。2回目の研修は11月を目途に考えております。ぜひともご参加いただきますようお願い申し上げます。

制限因子の抽出

関節構築学的因子: 関節構成体(硬部組織)
脱臼, 骨棘, 骨変形, 関節内遊離体関節鼠, 強直など

軟部組織性因子: 関節周囲の軟部組織の短縮や癒着
関節包, 靭帯, 腱, 筋, 皮膚などの短縮や癒着

疼痛性因子: 疼痛
関節構成体の炎症, 末梢神経の炎症, 軟部組織の伸張痛・短縮痛, 軟部組織・硬部組織の衝突など

その他: 中枢性疾患にともなう痙縮, 固縮など

第2回大隅地区研修会報告

大隅地区長

恒心会おぐら病院 永 瀨 良 太
始良・大隅地区担当理事

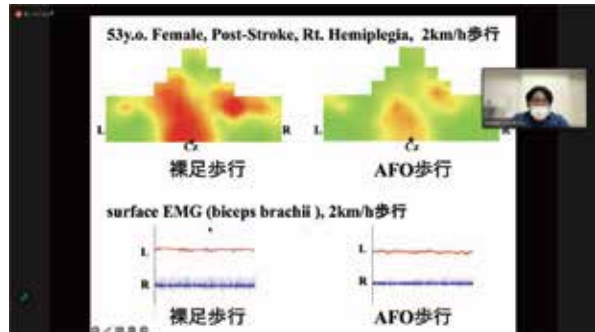
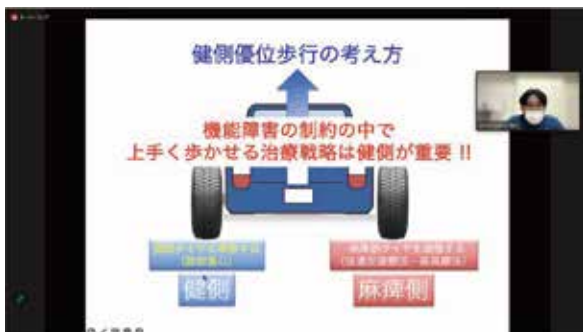
恒心会おぐら病院 榎 畑 純 二

第2回大隅地区研修会を9月15日に完全オンラインで開催しました。

今回は、鹿児島大学病院の上間智博先生に「脳卒中片麻痺の歩行練習 —機能障害の制約がある中で上手く歩かせるには—」の演題で御講演して頂きました。(座長：徳田脳神経外科病院 藤後大輔先生) 1時間と短い時間ではありましたが、62名の会員の皆様に参加いただき開催することができました。

機能障害の制約のある中でいかに上手く歩かせるためには治療戦略が重要とのことから、脳卒中片麻痺歩行の特徴、従来の歩行指導について説明いただき、上間先生の研究発表踏まえた健側優位歩行、歩行促通手技、装具療法等についてお話しいたきました。基礎研究も踏まえ、エビデンスに則った患者様の状態や歩容に適したアプローチを行っていくことの重要性を再認識させて頂きました。

今後の大隅地区の活動予定としまして、12月8日大隅地区第3回研修会(スポーツリハについて(仮))を予定しております。たくさんの会員の皆様の参加をお願いいたします。



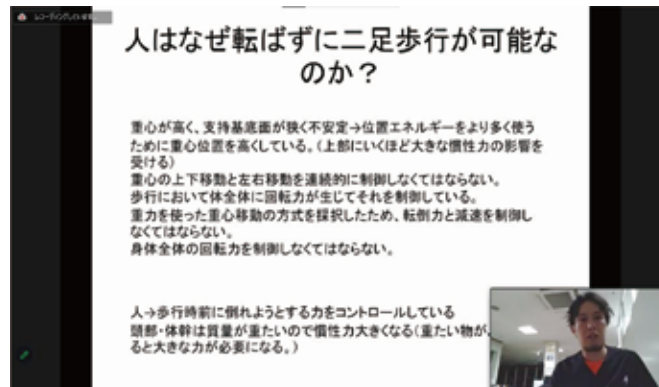
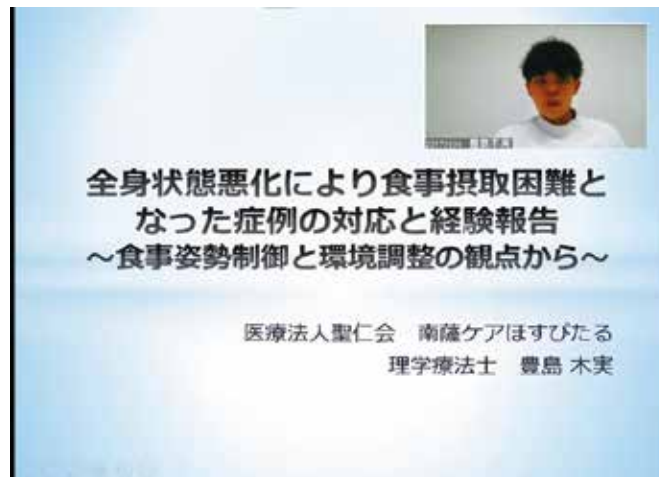
令和5年度 第2回南薩地区研修会および症例検討会報告

南薩担当理事 長 嶺 英 博
山 中 純
南薩地区長 木 場 涼 介

令和5年9月20日(水)19:00より、第2回南薩地区研修会をWeb上(Zoom)で開催させていただきました。講師は医療法人神護庵じんごあん整形外科内科クリニックの橋木康二先生によります「患者さんの診方」というテーマで約60分間にわたってお話いただきました。内容として、整形外科的な治療を行う際の、解剖学、運動学、筋繊維や皮膚、骨、感覚等の知識や、実際に臨床現場で用いられている評価や治療についてもわかりやすく説明をしていただきました。実際に明日から使える知識を教えてください、私たちの臨床実践に役立つものでした。

その後、20:10より、第2回症例検討会として、医療法人聖仁会南薩ケアほすびたるの豊島木実先生によります「全身状態悪化により食事摂取困難となった症例の対応と経験報告 ～食事姿勢制御と環境調整の観点から～」と題して報告が行われました。姿勢制御を考慮した環境調整を行うことにより食事摂取量の改善が図れたこと、また今後の課題について報告していただきました。その後、参加した先生方からもチャットや口頭での活発な意見交換が行われ、ご助言等も含め充実した検討会となりました。

研修会司会進行をしていただきました満永洋平先生、および症例検討会座長を務めてくださった、宮雅紀先生ご協力ありがとうございました。



令和5年度 第3回南薩地区研修会および症例検討会報告

南薩担当理事 長 嶺 英 博
 山 中 純
 南薩地区長 木 場 涼 介

令和5年10月27日(金)19:00より、第3回南薩地区研修会をWeb上(Zoom)で開催させていただきました。講師はいちき串木野市医師会立脳神経外科センターの瀧上祐一先生により「脳卒中と装具療法」というテーマで60分間にわたってお話しいただきました。内容として、脳卒中における装具療法についてエビデンスや病期に合わせた対応の方法、また実際に現場でどのように対応しているのか、装具採型時の注意点や、装具カンファレンスをどのように行っているかなど多岐にわたりご講演いただきました。急性期や回復期だけではなく、生活期における装具療法の方法も、実際に明日から使える知識であり、臨床実践に役立つものとなりました。

その後、20:10より、第3回症例検討会として、医療法人菊野会 菊野病院の佛淵みらい先生により「左へ易転倒性を呈している重症新生児仮死・低酸素虚血性脳症の乳幼児」と題して報告が行われました。重症新生児仮死状態で出生した1歳2か月の症例に対して、易転倒性を呈している原因とアプローチ方法を模索し、転倒の減少を認めた症例の報告を行っていただきました。その後、参加した先生方からも活発な意見交換が行われ、ご助言等も含め充実した検討会となりました。

研修会の司会進行をしていただきました浦底まゆみ先生、および症例検討会座長を務めてくださいました、中山佳祐先生ご協力ありがとうございました。

Gait Solution design



- ・油圧調整範囲: 抵抗がない状態から半固定まで無段階に調整可能
- ・底面制動範囲: 中立位から底面方向に15度
- ・初期設定角度: パーツ交換により0度と5度の2種類選択可能
- ・制動力調整範囲: 2Nm~20Nmまで無段階調整



10049710 瀧上 祐一

左へ易転倒性を呈している 重症新生児仮死・低酸素性虚血性脳症の乳幼児

菊野病院 総合リハビリテーション部
理学療法士 佛淵みらい



Check! 鹿児島県理学療法士協会 令和6年度研究助成の募集

あなたの研究を支援します

助成金10万円
最大5件

理学療法
かごしま
論文投稿

研究助成でできること

Start of
Research



情報発信

申請受付期間
令和6年1月4日～2月29日



令和5年度 採択テーマ

地域在住中高齢者における身体的・社会的・精神的評価
およびフレイルとの関連性
霧島市立医師会医療センター 福榮 竜也

小中学生軟式野球選手の身体的特徴の調査
恒心会おぐら病院 壺崎 裕太

超高齢化地域における下肢装具作成後のフォローアップの実態調査
垂水中央病院 米徳 一博

詳細はこちら

鹿児島県理学療法士協会研究助成委員会
<http://infokpta.com/publics/index/161/>
(鹿児島県理学療法士協会ホームページ)

鹿児島地区よりお知らせ

鹿児島地区理事 東 幸 太
岩 森 俊
鹿児島地区長 五十峯 淳 一
上 川 毅 康
川 元 大 輔
久 米 康 隆

2023年度 鹿児島地区研修会、症例検討会（12月、1月開催分）についてご案内申し上げます。会員の皆様の多数のご参加をお願い申し上げます。

【鹿児島地区 研修会】

日 時：2024年1月12日（金）19:00～20:30

開催区分：対面（感染状況によってはオンラインになる可能性あり）

場 所：鹿児島医療技術専門学校 平川校 1号館4F（学校駐車場をご利用ください）

定 員：40名（先着順）

研修会テーマ：『変形性関節症に対する理学療法評価・治療のPoint』

講 師：原 田 太 樹 先生（鹿児島大学病院）

運動器 認定理学療法士

研修会参加の締め切り：2023年12月29日（金）

【鹿児島地区 症例検討会】

2023年度鹿児島地区症例検討会の12月・1月開催スケジュールは以下の通りになります。

第3回 症例検討会 12月1日（金）19時～（30分1症例）

第4回 症例検討会 12月22日（金）19時～（30分1症例）

第5回 症例検討会 1月19日（金）19時～（30分1症例）

第6回 症例検討会 1月26日（金）19時～（30分1症例）

※ 申込方法、カリキュラムコード等の詳細は県士会HP、県士会LINE等をご覧ください。

2023年度 奄美地区研修会のお知らせ

鹿児島・奄美地区担当理事 東 幸太
鹿児島・奄美地区担当理事 岩 森 俊
奄美地区長 當 田 直 哉

2023年度 奄美地区研修会についてご案内申し上げます。奄美地区研修会は、厚地リハビリテーション病院 東 幸太 先生（脳卒中認定理学療法士）を講師にお招きして、ハイブリット方式にて開催させていただきます。

テーマは『脳卒中患者のADL場面への介入』です。鹿児島県理学療法士協会員・奄美地区協会員の皆様の多数のご参加をお待ちしております。

【奄美地区研修会】

日 時：令和6年3月2日（土）14：0000～17：00

研修会テーマ：『脳卒中患者のADL場面への介入』

講 師：東 幸太 先生（厚地リハビリテーション病院） 脳卒中認定理学療法士

場 所：デイサービス和月龍郷

開催形式：ハイブリット方式

研修会参加の締め切り：令和6年2月22日（木）

【研修会参加申し込み方法】 *：参加には事前申し込みが必要です。

申し込み先：奄美市笠利国民健康保険診療所 當田 直哉 E-mail：amami.pta@gmail.com

E-mail に件名「2023年度奄美地区研修会」と下記事項を明記しお申込みください。

申し込み確認いたしましたらメールにて申し込み受付完了の返信をいたします。返信がない場合は、申し込みが完了していない可能性がありますので、お手数ですが再度お問い合わせください。開催の3日前までには、Zoom ID、パスワードをメールにて連絡させていただきます。

- ① 氏名・フリガナ ② 勤務先 ③ 生年月日（西暦） ④ 会員番号（8ケタ）
- ⑤ 参加方法の選択：対面式かWeb参加か記載
- ⑥ 「登録更新ポイント」「認定・専門更新点数」どちらのポイント加算登録をするか記載
- ⑦ 2023年度会費納入について（未納の場合は受講できません）

【履修ポイントについて】 前期・後期研修受講中の場合、付与はありません。

カリキュラムコード区分6 77 中枢神経疾患の理学療法 3ポイント（180分）

ご不明な点は下記までお問い合わせ下さい。

奄美市笠利国民健康保険診療所 リハビリテーション科

當田 直 哉（トウダ ナオヤ）

TEL：0997-63-0011 E-mail：amami.pta@gmail.com

私と私の職場

医療法人 玉昌会 キラメキテラスヘルスケアホスピタル

平川 智士

10月は神無月と言い全国の神々が出雲大社に集まる月として知られています。今年の夏は全国的にも例年にない猛暑の連続により、さすがの神々も秋バテで出雲大社まで果たして無事にたどり着けたことやら…。さて、鹿児島県理学療法士協会会員の皆様におかれましては秋バテせずに元気にお過ごしでしょうか。今回は私が勤務するキラメキテラスヘルスケアホスピタルの紹介をさせていただきます。

当院は昭和32年に創設された高田医院を礎に昭和60年リハビリテーション室開設、平成21年9月回復期病棟、平成29年4月地域包括ケア病棟を開設。令和3年2月『キラメキテラスヘルスケアホスピタル』と名称変更し、高麗町へ移転、令和3年9月地域一般病棟開設、同年10月19床増床して病床の過半数以上が回復期機能の全198床を擁する病院へと成長致しました。病院の成長と共にリハビリテーション室も進化を続け、PT42名・OT29名・ST10名の総勢81名のセラピストが従事しております。対象疾患としては、脳血管疾患、整形外科疾患、呼吸器疾患、内部障害や悪性腫瘍等の患者様へ広範囲に対応しております。キラメキテラスへ移転してからは急性期病院機能のいまきいれ総合病院と回復期・慢性期病院機能である当院が別法人同士アトリウム通路で連結して連携を図る日本初の試みで、より一層様々な疾患や急性期治療後早期の患者様の対応が可能となりました。移転と共に整形外科専門医を2名増員したことで、今まで脳血管疾患が主であった患者比率が同等となり、運動器疾患においてもより専門的に診療・リハビリテーション治療が受けられるようになりました。また、今年4月から小児リハビリテーションを開始し、小児から高齢者まで多世代の地域の方々へリハビリテーションを提供できるようになりました。入院・外来・訪問リハ・通所リハ・通所介護・看護小規模多機能型居宅介護等があり、退院後の在宅復帰・生活支援へも柔軟に対応できる医療機関として、日々充実したリハビリテーション及び地域の介護予防事業・地域貢献活動を提供しております。

リハビリテーション部門ではリハビリテーション専門医4名体制による充実した診療回診体制や鹿児島大学病院リハビリテーション医学教授下堂菌先生による特別診察やリハビリテーション医学研究や学会発表へご協力いただきリハビリスタッフへの指導を行う事でリハビリテーションの質向上が図れております。その他、先端リハビリテーション機器導入、モバイル端末によるリハビリ効率化、シミュレーターや自動車教習所と連携した自動車運転再開支援、透析中リハビリテーション、義肢装具士院内配置、口から食べるプロジェクト、オンライン嚥下評価の実施など様々な新たな取り組みを実践しております。

私が入職した当時では、慢性期リハビリテーションが主であった病院ですが、現在では回復期や亜急性期の患者様へ対象も変化し、病期や病態も多岐にわたりセラピスト1人1人に求められる知識や技術も広がったことを実感します。今後も時代や環境が目覚ましく変化する中で個人や組織にも変化が求められることを念頭に、『いつまでも健やかに・・・私たちの願いです』の法人理念の元、我々が地域に求められている役割を理解して明確な法人Visionに向けてスタッフ一丸となり邁進していきたいと思います。

秋が深まりゆく季節、会員の皆様方の更なるご活躍をお祈りいたします。



私のおすすめ

神村学園専修学校
立石 洋

自分の考えや思いを他人へ伝えるということは非常に難しい。

理路整然と自分の考えをまとめ、アウトプットできるような能力を持つ人は羨望の限りだが、能力に関わらず、自分が本当に伝えたいことをわかりやすく伝えるためには、『技術』として思考を論理的に整理しアウトプットする方法を学ぶことが有効である。

「問いを立てて、調べ、考え、表現すること」は理学療法士のみならず、専門職には必要となる能力である。最後の「表現する」は話すこと、書くことだけではなく、理学療法士にとっての「治療」もそれにあたるとも思うが、自分の考えを整理し表現することはなかなか難しい。

本書では、パラグラフィティングという手法により、パラグラフ（段落）により書く内容・役割を決めることにより、最初の段落で述べた結論に対して、その後、どのように根拠、解説を展開し、思考を整理・表現していくかを分かりやすく説明している。

また、本書は、単に研究法の説明ではなく、研究を通して得られる論理的思考法について重点を置き書かれている。2000年初頭より文部科学省の職業教育の一環として高校、大学、専門学校など高等教育課程でも論理的思考力の育成を重視しカリキュラムが作られている。理学療法白書などでも研究マインドを持った理学療法士を育成するための教育の必要性が強く求められており、本書のパラグラフィティングはそのためにも非常に有効な方法となると考える。



<https://shop.miwapubl.com/products/detail/2176>

事務局だより

令和5年8月1日～令和5年10月30日現在受理分

ニュース

新潟No. 204 山梨No. 162 兵庫No. 201 神奈川No. 297
秋田No. 210 広島No. 275 熊本No. 143

学術誌

鹿児島県医師会報 第866号
NO Limit Vol. 94
県薬会報 No.187
理学療法群馬 No. 34
理学療法ジャーナル Vol. 57 No. 9
医師会報 第867号
理学療法ジャーナル Vol. 57 No. 10
第33回京都府理学療法学会プログラム集
理学療法-臨床・研究・教育 第30巻
医師会報 第868号
長崎県理学療法士協会設立50周年記念誌
理学療法ジャーナル Vol. 57 No. 11

<会員動向> (7/15～10/15定期承認まで)

入会27件 県内異動31件 転入1件 転出6件
休会1件 復会2件 退会0件

役員行動録

8月7日 3役会(平名・生駒・白尾・東條)
9日 理事会(平名・生駒・白尾・東條)
8・16日 損害保険事務所対応(東條)
15日 会員通夜(平名)
20日 学術部研修会(白尾)
21日 JPTA斉藤会長意見交換(平名)
27日 前期研修(生駒・白尾)
スポーツ委員会研修会(白尾)
30日 保険部研修会(平名・白尾)
31日 規約審議委員会(生駒・東條)

9月2日 臨床実習指導者講習会(生駒)
5日 県高齢者福祉計画作成委員会(平名)
7日 リハフェスカごしま準備委員会(平名)
9日 規約審議委員会(生駒・東條)
10日 JPTA事務局長会議(東條)
11日 3役会(平名・生駒・白尾・東條)
13日 理事会(平名・生駒・白尾・東條)
16日 規約審議委員会(生駒・東條)
23-24日 POS推進リーダー研修
(平名・生駒・東條)
後期研修(白尾)
30日 訪問リハ研修会(平名)
九州ブロック学術担当者会議(白尾)
10月7日 JPTA第7回理事会(傍聴)(生駒・白尾)
8日 JPTA全国組織運営協議会(生駒)
傍聴(白尾)
10日 3役会(平名・生駒・白尾・東條)
11日 理事会(平名・生駒・白尾・東條)
13日 県地域・職域・学域推進委員会(平名)
県学会特別講演打ち合わせ(生駒)
18日 JPTA職能担当者会議(生駒)
20日 リハフェス運営会議(生駒)
21-22日 後期研修(生駒・白尾)
23日 鹿大講義(平名)
24日 JPTA全国職能関連担当者会議(傍聴)
(白尾)
27日 規約審議委員会(生駒・東條)
28日 全国障害者スポーツ大会視察(鴨池会場)
(白尾)

編集後記

すっかり日が短くなりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか？私はすでに食欲の秋を楽しんでいます。皆様、季節の変わり目は体調を崩しやすくなりますので、お身体には十分お気をつけください。

広報誌に関してご意見等ございましたら、編集部までご連絡をお願いいたします。

rihabiri@gyokusyukai.com

編集部 丸山元大